

## 黒毛和種繁殖雌牛への飼料用粳米給与

近年の配合飼料価格の高騰を受け、飼料用米を輸入穀物飼料の代替として利用することで飼料自給率の向上が期待されており、飼料用米の作付面積は戸別所得補償制度を背景に大幅に増加しました。しかしながら、黒毛和種繁殖雌牛に飼料用米を給与した場合の栄養状態、健康および繁殖性への影響は明らかではなく、利用拡大が進んでいません。そこで、岐阜県畜産研究所では、黒毛和種繁殖雌牛に分娩2週後から受胎が確認されるまで、市販配合飼料の67%を粉碎した粳米で代替した飼料を給与し、栄養状態、健康および繁殖性に及ぼす影響を検討しましたので紹介します。

### ☆ 技術の概要

1. 1日1頭当たり粉碎加工した粳米を2kg および市販配合飼料を1kg 給与する試験区と市販配合飼料を3kg 給与する対照区を設定し、各区黒毛和種繁殖雌牛12頭を供試して、分娩2週後から受胎が確認されるまで給与試験を行いました。
2. 体重、栄養度（肉牛のボディコンディション）は両区ともに同様の推移を示しました。
3. 血液検査所見は、両区とも正常範囲内にありますが、白血球数（WBC）、総蛋白（TP）、総コレステロール（T-Cho）で試験区と対照区に差が認められました。
4. 試験区は、発情回帰日数や空胎日数が短く、人工授精回数が少ない傾向を示しました。
5. 以上のことから、繁殖時期の黒毛和種繁殖雌牛に対して、飼料用米を濃厚飼料の代替として1日1頭当たり2kg 給与しても、栄養状態、健康および繁殖性に大きく影響しないことが示されました。



写真1 粉碎した飼料用米



写真2 飼料用米を混合した飼料



写真3 黒毛和種繁殖牛への給与試験

### ☆ 活用面での留意点

今後、飼料用米のさらなる利用促進のためには、飼料用米の全期間給与、および出生子牛に対する影響も調査する必要があります。なお、詳細は、岐阜県畜産研究所・飛騨牛研究部 武田賢治(TEL: 0577-68-2226)にお問い合わせください。

(日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 加茂幹男)